Japanese Association for Religious Studies

会　報

○第六五回学術大会

九月一六日(土)～一八日(月・祝)の三日間、東北大学において以下の日程で開催され、四五九名の参加者があった。

・九月一六日(土)

学会賞選考委員会	一二時～一三時
庶務委員会	一三時～一四時三〇分
国際委員会	一三時～一四時三〇分
情報化委員会	一三時～一四時三〇分
開会式	一四時三〇分～一四時四〇分
公開シンポジウム	一四時四〇分～一七時四〇分
理事会	一八時～二〇時三〇分

・九月一七日(日)

研究発表（個人）	九時～一二時四〇分
評議員会	一二時四〇分～一四時
研究発表（パネル）	一四時～一六時
会員総会	一六時二〇分～一七時四〇分
懇親会	一八時～二〇時

・九月一八日(月・祝)

研究発表（個人、パネル）	九時～一二時四〇分
プログラム委員会	一一時～一二時三〇分
『宗教研究』編集委員会	一二時四〇分～一三時三〇分
研究発表（個人）	一三時三〇分～一七時三五分

○日本宗教学会賞選考委員会

日　時　二〇〇六年九月一六日(土)一二時～一三時
場　所　東北大学　文学研究科研究棟　ミーティングルーム
出席者　澤井義次、塩尻和子、嶋田義仁、津城寛文、長谷部八朗(長)、松村一男、三友健容、（オブザーバー）星野英紀

議　事

一、審査の結果、矢野秀武氏の以下の業績を推薦することを決定した。推薦理由は以下の通りである。

二〇〇六年度学会賞選考委員会報告

矢野秀武氏（駒澤大学専任講師）の研究業績について

審査対象

『現代タイにおける仏教運動――タンマガーイ式瞑想とタイ社会の変容』（東信堂、二〇〇六年三月刊）

本書は、上座仏教の伝統が強い現代タイにおいて、一九七〇年代以後、活発な活動を展開してきたタンマガーイ寺とその先駆けとなったパークナーム寺を中心とする新仏教運動について、長年にわたるフィールドワークの成果を踏まえながら、宗教社会学の視点から探究したものである。著者は現代タイの上座仏教内の僧侶によって創出されたタンマガーイ式瞑想やタンマガーイ寺の儀礼および信仰を、近代国家による統一サンガ形成の行政に対抗する「近代宗教運動」の一つとしてとらえ、その仏教運動を宗教史と宗教行政の関係、および消費社会と宗教的実践の関係という二つの視点から記述・分析している。この

NII-Electronic Library Service

Japanese Association for Religious Studies

研究によって、現代タイ社会における急激な近代化の波の中で、その新仏教運動が伝統的な上座仏教から強い批判を受けながらも、救済を求める大衆の宗教意識を取り込んでいく過程を明らかにしている。

本書全体は、序章と第一部、第二部、第三部の三部構成になっている。まず、序章では、タイの宗教および上座仏教に関する先行研究を丁寧に踏まえて、本書の意図、対象および分析方法を提示している。そのうえで第一部では、二十世紀初頭から現代までのパークナーム寺の状況とタンマガーイ式瞑想の形成過程を論じている。その議論をとおして、タンマガーイ式瞑想の実践内容とその思想が、主流派の正統的な解釈とタンマガーイ式の独自な解釈が接合された二重構造を成していることを指摘している。第二部では、タンマガーイ寺が活動を展開する過程で、一般信徒のあいだで二つの信仰の型が、すなわち、瞑想・修養系の信仰と寄進系の信仰が組み合わさっていることを明らかにしている。さらに第三部では、第一部と第二部における議論を踏まえながら、タンマガーイ式瞑想の形成と展開を分析・整理し、タンマガーイ寺の伝統が宗教的自己（個人）の観念を展開していく状況を分析している。タンマガーイ式瞑想は涅槃志向の特殊な守護力信仰に基づいているが、著者はその守護力信仰が独自の宗教的自己の観念を生み出したと分析している。また瞑想・修養系の信仰において、信徒の主観レベルでは、宗教的実践が消費社会への抵抗として認識されているが、それがマクロレベルでは、実質的に消費社会に絡め取られていることを検証している。

このように本書は、現代タイ社会における新仏教運動を宗教社会学的に分析した労作である。従来のアジア・アフリカ研究では、固有な伝統文化に焦点が当てられがちであったが、本書は同時代としてのタイの社会的変容と宗教運動に正面から取り組んでいる。また著者は研究方法として、アンケートやインタビューなどの宗教社会学的な方法、タイ仏教史や自伝分析などの宗教史的な方法、さらにタイ語仏教経典に関する文献学的方法を有機的に連関させている。こうした意味において、本書は地域研究や隣接分野との学際的な研究を刺戟し、宗教研究に新たな潮流を惹き起こす可能性を含んでいる。

ただし、本書はいまだ検討すべき研究課題を抱えている。まず、本書における議論の厚みに比べて、導き出された結論がやや平板なものになっている点に不満が残る。著者は瞑想・修養系の信仰を消費社会論的な視座からとらえようとするあまり、その思想や信仰の深みを規律性と快適性という行為の表現様式へと平板化し、そのために、その思想や信仰の分析が皮相的なものとなっているきらいがある。また、伝統的な上座仏教の思想や信仰に関する記述が不十分であるために、タンマガーイ寺の思想や信仰との差異が必ずしも明確になってはいない。さらに、タンマガーイ寺は仏教の社会還元運動を行う世界の仏教徒とも交流を深めているが、そうしたタンマガーイ寺と海外の仏教教団との関わりについても考察を加えれば、タンマガーイ寺の運動目標がもっと明白になるであろう。

以上、述べたように、本書は今後、明らかにすべき研究課題を抱えてはいるが、新しい研究ジャンルを開拓し、宗教学の新

NII-Electronic Library Service

Japanese Association for Religious Studies

たな可能性を示す、質量ともに高いレベルの宗教研究である。こうした点を評価し、二〇〇六年度の日本宗教学会賞にふさわしい研究業績として推薦する。

○庶務委員会

日　時　二〇〇六年九月一六日(土)一三時～一四時三〇分
場　所　東北大学　文学研究科研究棟　中会議室
出席者　岩田文昭、櫻井治男(長)、ポール・スワンソン、関一敏、鶴岡賀雄、林淳、藤田正勝、山中弘、渡辺和子、(オブザーバー)星野英紀

議　事

一、次年度の会員名簿発行について
来年一二月発行予定の会員名簿は、従前の形式と内容を踏襲すると共に、個人情報の適正な取扱いについて留意されるよう明記する。個人会員には来年三月に記載内容・事項の問い合わを行う。なお、団体(賛助・準)も名簿に掲載するが、従来通り、名簿を渡さないことを確認した。

二、学術大会について
・理事会において承認された発表題目は、一切変更が認められないことを再確認した。
・次年度以降、発表申込資格に、前年度までの会費を納入済みであることを加える。
・日本語以外の言語による発表希望については、プログラム委員会でそのあり方を更に検討し、必要に応じて理事会に諮ることとする。

三、日本宗教学会賞規程について
受賞者の資格を「原則として四〇歳未満」とする提案があったが、現行規定通り「四〇歳未満」として今後も運用する。

四、会費納入率向上を図るため、滞納者へは適宜督促を行う。

○国際委員会

日　時　二〇〇六年九月一六日(土)一三時～一四時三〇分
場　所　東北大学　文学研究科研究棟　小会議室
出席者　池澤優(長)、澤井義次、嶋田義仁、田島忠篤、深澤英隆、吉原和男、渡辺学

議　事

一、報告事項
①九月一七・一八日にルーマニアのブカレストで開かれるＩＡＨＲ理事会に月本委員が出席し、二〇〇五東京大会に関する報告を行う。また、二〇一〇年の第二〇回世界大会(トロント大会)のテーマ“The Academic Study of Religion in the 21st century”(仮題)が審議される予定。
②国際アジア・北アフリカ研究会議(ＩＣＡＮＡＳ)第三八回大会が二〇〇七年九月一〇～一五日にトルコのアンカラで開催される。テーマ Peace at Home, Peace in the World

二、東アジアの宗教研究者による国際シンポジウム開催の提案
本案はＩＡＨＲ二〇〇五東京大会後の日本宗教学会の海外交流を更に充実させるために、その手始めとして宗教学会が東アジアの宗教研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催することによって、東アジアの交流を拡大することを目的として

NII-Electronic Library Service

Japanese Association for Religious Studies

考えられたものである。シンポジウムを開催するには、制度上あるいは資金上、なお解決すべき課題があることが指摘され、その点を踏まえた上で、本計画の意図と問題点を共に理事会に提案することが了承された。

○情報化委員会

日　時　二〇〇六年九月一六日(土)一三時～一四時三〇分
場　所　東北大学　文学研究科研究棟　文三二九
出席者　小川順敬、櫻井義秀、中野毅(長)、弓山達也、吉永進一

議　事

一、DVDデータベースについて
バグや入力ミスの情報を集約し、HP内で告知する。数年後に、これらを修正し、追加情報を掲載した新規データベースを作成する。

二、HPについて
・リンクに関する基本原則・基準と、新リンク先（第一次案）を確認した。リンク先の更新は理事会報告後に行う。
・委員会の中に、HP運営作業部会を設置する。
・会合案内の原則を確認し、総会他で告知する。
・学術大会後に、大会テーマを含む報告を掲載する。

三、国立情報学研究所の電子図書館で、年度内に『宗教研究』が全号公開予定であるので、宗教学会として独自のサーバーを立ち上げる必要はないことを確認した。

○理事会

日　時　二〇〇六年九月一六日(土)一八時～二〇時三〇分
場　所　東北大学　文系総合研究棟　大会議室
出席者　芦名定道、荒木美智雄、池澤優、市川裕、井上順孝、宇都宮輝夫、大村英昭、小田淑子、加藤智見、川村邦光、氣多雅子、古賀和則、小坂国継、櫻井治男、澤井義次、塩尻和子、島薗進、嶋田義仁、末木文美士、鈴木岩弓、鈴木正崇、ポール・スワンソン、薗田坦、高田信良、田島忠篤、田島照久、棚次正和、津城寛文、土屋博、鶴岡賀雄、中野毅、中村生雄、中村廣治郎、丹羽泉、長谷正當、長谷部八朗、花岡永子、林淳、藤田正勝、カール・ベッカー、星川啓慈、星野英紀、間瀬啓允、松丸壽雄、松村一男、三友健容、山中弘、山本春樹、吉原和男、渡辺和子、渡辺学

議　事

一、会計報告
山中庶務委員より、二〇〇五年度の決算報告と二〇〇六年度の予算案が提出され、承認された。（別記参照）

二、日本宗教学会賞
長谷部委員長より、審査結果が報告され、報告通りに決定した。

三、諸委員会からの報告と提案
(1)庶務委員会
①次回の会員名簿は従来の形式や内容で発行する。来年三月に

NII-Electronic Library Service

Japanese Association for Religious Studies

個人会員に「記載事項確認のお願い」を郵送する。

②学術大会について

・理事会承認後の発表題目の変更は認められない。発表ならびにレジュメは、プログラム記載の題目通りとする。

・次年度以降、発表申込資格に、前年度までの会費が納入済みであることを加える。

③学会賞規定は現行通りとする。

(2)国際委員会

・七月に、ＩＳＡ（国際社会学会）が南アフリカのダーバンで開催された。次回は二〇〇八年にスウェーデンで開催。

・アジア地域の宗教学の研究者との相互交流を促進するためにまず東アジア各国から研究者を招聘し、国際シンポジウムを定期的に開催したいとの提案があった。来年四月の理事会までに具体的な実行案を検討することになった。

(3)情報化委員会

新ＨＰのデモンストレーションが行われた。リンクに関する原則とリンク先候補（第一次案）が説明された。

(4)ＩＡＨＲ残務委員会

大会の報告書が四月に完成し、寄付者他に送付した。なお、ＩＡＨＲ東京大会で発表をされた方々で、大会後に、発表内容を書物、報告書、定期刊行物の特別号として刊行、または論文として掲載された方は、その情報をお寄せ下さい。

四、委員会の新委員

・編集委員

任期終了の小池淳一、ポール・スワンソン、松村一男の三氏に代わって、島岩、細田あや子、山﨑亮の三氏に委員を委嘱したこと、スワンソン氏には主に英文担当として、引き続き委員を委嘱したことが会長より報告され、承認された。

・プログラム委員

任期終了は鈴木岩弓氏（開催校）、ポール・スワンソン氏。重任の鶴岡賀雄、林淳、星野会長の三氏に加えて、新たに岩田文昭、関一敏、三友健容（開催校）の三氏に委嘱した旨が報告され、承認された。

五、次年度の学術大会

三友常務理事より、立正大学で、二〇〇七年九月一五日～一七日の日程で開催予定であることが報告された。

六、新入会員

別記七名の入会が承認された。

七、名誉会員

上田閑照氏、大屋憲一氏、菅原信海氏に名誉会員になっていただくことが決定された。

八、日本学術会議について

①氣多日本学術会議会員より、八月に第二次連携会員が決まり（内、宗教学会から一三名）、第二〇期の連携会員全員が決定したので、実質的な活動を開始するとの報告があった。

②日本学術会議史学委員会所属ＩＣＡＮＡＳ（国際アジア・北アフリカ研究会議）小委員会より、二〇〇七年九月にトルコのアンカラで開催されるＩＣＡＮＡＳ第三八回大会の第一回サーキュラーが届いたことが、中村廣治郎東洋学（アジア研究）連絡協議会担当委員から報告された。

NII-Electronic Library Service

Japanese Association for Religious Studies

○評議員会

日　時　二〇〇六年九月一七日(日)一二時四〇分～一四時

場　所　東北大学　大講義棟　法学部二番教室

出席者　一〇〇名

議　事

一、諸報告

・会計報告

・日本宗教学会賞

・次年度の学術大会

二、情報化委員会

『宗教研究』DVDとリニューアルされた学会HPのデモンストレーションが行われた。国際大会や会員が主体的に関わっている研究会の情報をお寄せ下さい。情報の掲載方法は、HPをご覧下さい。

三、国際委員会

アジアを中心とする地域の研究者との交流を学会レベルで図るために、まずは東アジアの研究者を招聘して恒常的に国際シンポジウムを開催してはどうかとの提案を昨日の理事会に諮った。宗教学会の一年間のスケジュールも考慮し、来春までに実現性の高い企画を検討していくので、本案への提案やご意見があればお寄せ下さい。

○総会

日　時　二〇〇六年九月一七日(日)一六時二〇分～一七時四〇分

場　所　東北大学　大講義棟　法学部二番教室

出席者　大会参加会員数四五九名、定足数一五三名、出席者数（委任状提出者を含む）二四一名、よって総会は成立した。

議　事

一、開会

二、議長に鈴木岩弓氏を選出

三、日本宗教学会賞について

四、会計報告

五、諸委員会報告

・庶務委員会

学術大会の発表は、理事会で承認された題目で行う。次年度以降、前年度の会費が納入済みであることを発表申込の前提条件とする。

・国際委員会

・情報化委員会

六、編集委員とプログラム委員の交代

七、日本学術会議関連事項

八、次年度学術大会について

九、名誉会員について

一〇、閉会

NII-Electronic Library Service

Japanese Association for Religious Studies

○プログラム委員会

日　時　二〇〇六年九月一八日(月・祝)一一時～一二時三〇分

場　所　東北大学　文学研究科研究棟　中会議室

出席者　岩田文昭、鈴木岩弓、関一敏、ポール・スワンソン、鶴岡賀雄、林淳(長)、星野英紀、三友健容、(オブザーバー)北川前肇

議　事

一、本年度と次年度の委員で引き継ぎを行った。今大会実行委員長である鈴木委員より、パネル数や発表申込書の記入欄の再考等の課題点、また、今大会の発表取消者名と取消理由が報告された。

○『宗教研究』編集委員会

日　時　二〇〇六年九月一八日(月・祝)一二時四〇分～一三時三〇分

場　所　東北大学　文学研究科研究棟　中会議室

出席者　浅見洋、樫尾直樹、小池淳一、島岩、白川琢磨、杉村靖彦、ポール・スワンソン、長谷部八朗、保坂俊司、細田あや子、松村一男(長)、山﨑亮、山中弘、(オブザーバー)星野英紀

議　事

・委員長の交代。

・三五二号(来年六月刊行予定)以降の書評本および評者候補を選定した。

・今後も、大会の発表要旨を大会紀要号に掲載することを確認した。

○訂正

三四八号掲載の書評　湯浅泰雄著『哲学の誕生』に関して、評者の井桁碧氏より以下の訂正がありました。

一五二頁下段一行目

誤　二五日

正　九日

NII-Electronic Library Service